

北極環境研究コンソーシアム
「北極域研究船利用計画ワークショップ」の開催について
(参加ご案内)

1. 趣旨・目的

北極環境研究コンソーシアム(JCAR)では、現在我が国で建造に向けた検討が進められている「北極域研究船」を最大限に利用し研究を進展させていくため、「北極域研究船利用計画ワーキンググループ」を設置し(別紙参照)、本船就航後の研究テーマや観測計画について検討を進めています。

当ワーキンググループで検討している研究テーマや観測計画について、より広範なコミュニティからの意見を取り入れるため、オープンな形式でのワークショップを開催します。

北極域研究は、自然科学、工学、人文社会科学等の多くの分野が連携して推進していく必要があります、そのプラットフォームとなる北極域研究船の利用計画の検討にあたっては同様に。ぜひ多くの研究者、関係者の皆さまにご参加いただけますようお願い申し上げます。

なお、本ワークショップは、JCARの主催のもと、北極域共同研究推進拠点(J-Arc NET)の支援による、共同研究集会「北極域研究船による研究テーマ及び観測航海計画策定に係る検討集会」(研究代表者:赤根)の一環として実施するものです。

2. 日時

令和2(2020)年6月4日(木)13時30分~17時頃

3. 形式

ZOOMによるオンライン開催

※参加希望者は、5月29日(金)17時までに、参加お申し込みをお願いします。

※ZOOMのURLは参加者にお知らせいたします。

4. 参加対象

自然科学、工学、人文社会科学等の研究者、学生、その他関係者(企業、メディア等)

※JCARメンバーである必要はありません。

5. 参加方法

参加希望者は、5月29日(金)17時までに、北極環境研究コンソーシアム事務局(jcar-office-core@nipr.ac.jp)宛に、件名に「JCARワークショップ参加申込」と記載し、本文にお名前、ご所属名(学生は学年)、関心分野(任意)を記載して送信してください。

6. プログラム

	内容	担当メンバー	時間
開会（13時30分）			
①	開会・趣旨説明	山口一（東大）	25分
②	北極域研究船の検討状況及び利用計画	赤根英介（JAMSTEC）	
③	研究テーマ及び観測計画		
	(1) 中部北極海の古海洋復元	山本正伸（北大）	10分
	(2) 北極海の構造発達史復元	佐藤暢（専修大）	10分
	(3) 北極海の季節変動観測	溝端浩平（海洋大） 田村岳史（極地研）	10分
	(4) 気候モデルによる海氷予測精度向上 を目指した北極海縦断観測	渡邊英嗣（JAMSTEC）	10分
休憩（14時35分～14時40分）			5分
	(5) 生態系観測を含む太平洋側北極海の 総合観測	西野茂人（JAMSTEC） 松野孝平（北大）	15分
	(6) 太平洋側北極海の開放水面、氷縁域、 多年氷域における海洋・波浪観測	早稲田卓爾（東大）	10分
	(7) “Polar morning” における大気－海氷 －海洋間のフラックス観測	川合美千代（海洋大） 野村大樹（北大）	10分
	(8) 北極海における船舶運航の安全性と 経済性の向上	松沢孝俊（海技研）	10分
	(9) 氷海域における観測体制の確立	猪上淳（極地研）	10分
	(10) 人文社会科学のフィールドとしての 北極域・研究船	礪波亜希（筑波大） 大西富士夫（北大）	5分
休憩（15時45分～15時50分）			5分
④	総合討論	進行：山口一	60分
⑤	総括・閉会	山口一（東大）	5分
閉会（16時55分）			

7. お問い合わせ・参加申し込み先

北極環境研究コンソーシアム（JCAR）事務局

jcar-office-core@nipr.ac.jp

以上

北極環境研究コンソーシアム（JCAR）

北極域研究船利用計画WG概要

目的

- 令和2年度に基本設計が予定されている北極域研究船について、運用開始後に国際研究プラットフォームにふさわしい機能を十分に発揮するため、国際共同観測・研究を含め、3～5年程度の研究テーマと観測計画を立案
- 本WGによる検討（行動）と具体的な観測計画の策定によって、コミュニティ内の機運を醸成するとともに、建造等に向けた検討を進める政策サイドへインプット
- 将来的には、北極域研究船が我が国の北極域研究における国際研究プラットフォームとして位置づけられることを想定し、北極域研究船利用計画WG（あるいはその後継組織）に観測計画立案機能を付託することも視野

当面のスケジュール

- 令和2（2020）年5月～6月ごろまでに、北極域研究船による長期的な研究テーマ（～10年）とそのための3～5か年程度の観測計画を立案・策定
- 大まかなプロセスとして、①WG内で案を作成し、②6月初旬にオープンなWSを開催し議論のうえ、③策定結果を公表
- 策定結果は、JCARのウェブサイトなどで公表するとともに、文部科学省をはじめ関係省庁にインプット（WGメンバーにもご協力いただきたい）
- 観測計画の立案にめどが立ちしだい、今後のWGの在り方と北極域研究船を見据えた北極海観測計画の策定スキーム（WGへの付託やその試行含む）についてセットで議論したい。

JCAR北極域研究船利用計画WGメンバー

五十音順

	氏名	所属	分野	備考
1	赤根 英介	JAMSTEC	海洋観測研究計画	幹事
2	猪上 淳	極地研	気象学、大気海洋相互作用	
3	大西 富士夫	北大北極	国際政治学	
4	川合 美千代	東京海洋大	化学海洋学	
5	佐藤 暢	専修大経営	地質学、海底岩石学	
6	田村 岳史	極地研	極域海洋学・海氷衛星リモートセンシング	
7	礪波 亜希	筑波大	国際政治経済学	
8	西野 茂人	JAMSTEC	みらい北極観測（海洋物理・化学）	
9	野村 大樹	北大水産	海氷生物地球化学	
10	松沢 孝俊	海技研	氷海工学	
11	松野 孝平	北大水産	プランクトン、海洋生物	
12	溝端 浩平	東京海洋大	衛星リモートセンシング、海洋物理	
13	山口 一	東大新領域	海氷予測	座長
14	山本 正伸	北大地球環境	古海洋学	
15	早稲田 卓爾	東大新領域	海洋波	
16	渡邊 英嗣	JAMSTEC	極域海洋学・数値モデリング	